



1. 2020年の家づくり

だんだんと寒さが厳しくなる季節となって来ましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。まだ寒さになれない時期でも有りますので、体調管理に気を付けて良い年を迎える準備をしましょう。

只今、おいらせ町緑ヶ丘で来年1月完成を目指して工事の進む〇邸ですが、完成後にはお施主様のご厚意で完成見学会を開催することになりました。詳しい日程は決まり次第お知らせいたします。

さて、ここから少しかだけ難しいお話しです。

2020年に住宅の省エネ義務化が決定されたことは、業界内では当たり前前の制度として認識されています。しかし、住宅建設を検討されているお客様にはあまり周知されていない事も事実のようです。そこで、情報通信を読んで頂いている皆様に簡単にご説明させていただきます。

日本の住宅における省エネルギー対策は、環境先進国と呼ばれるEU諸国に比べて大幅に遅れをとっています。この状況を改善する為に国（国土交通省）は住宅を含む全ての新築建築物に対して省エネルギー基準を満たす事を義務付ける方針を打ち出しました。省エネで性能の高い住宅による健康増進効果も注目されており、各自治体や研究機関でも調査がはじまり実証されつつあるところです。

今後のエネルギーコストの上昇を考えると、省エネ性能の低い住宅は家計を圧迫することは確実です。国が現在の最低基準として推奨している「長期優良住宅」ですが、2020年には更に※二段階高い基準が義務付けられることになり、そこに対応できない工務店、住宅会社はそこから追い出されることとなります。2020年までわずか5年（年が明ければ4年）となりますが、当社でも制度に合わせた家づくりを提供できるようこれから頑張っていく所存です。

※2020年には省エネ法に基づいた建築・設備によって減少したエネルギー消費量と創エネによって作り出されたエネルギーの合計が、その建物で消費される標準のエネルギー消費量と等しいか多い建物をたてなければならなくなります。

2 断熱工法の話。まずは工法の違いから・・・

断熱工法には、大きく分けて充填断熱工法（内断熱工法）と外断熱工法（外貼り断熱工法）と大きく分けて2つあります。

■充填（内）断熱工法

建物の構造体の内部に断熱材を充填する方法で、主としてグラスウールやロックウールといった繊維系の断熱材が多く用いられ、断熱工法の中ではもっとも安価で、特別な技術や経験を必要とせず、もっとも広く行われている工法です。しかし、木材の部分が発熱橋となる為、外断熱工法と比べてより厚い断熱材が必要なことや、グラスウールなどの繊維系断熱材を用いる場合は、その固定を確実にしないと、壁体内部で断熱材が垂れ下がり、その部分から外気が流入して壁体内結露などの問題を発生する危険性も残されています。

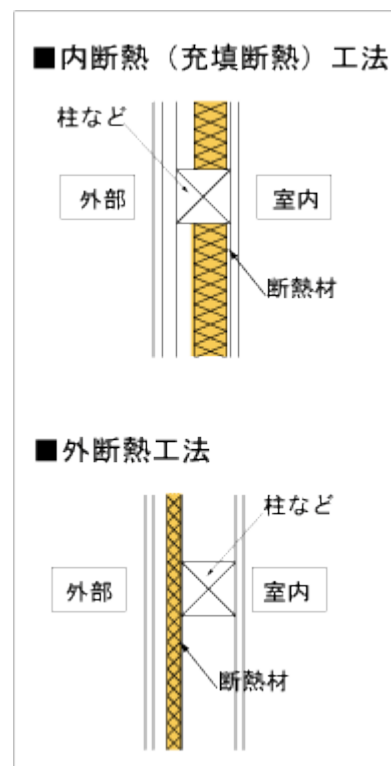
ちなみに当社では同じ充填断熱工法でも現場吹付発泡ウレタン工法も採用しております。吹きかけた液体が膨張して隅々まで断熱材が入ることで隙間なく断熱することが可能で、同時に気密性も高めることもできます。

■外断熱工法（外貼り断熱工法）

熱橋や断熱材の垂れ下がり無くす工法として考え出されたのが、外断熱工法と言われるもので、構造体の外部に断熱材を貼り、熱橋となる部分をなくすことで、同じ断熱性であれば、充填工法よりも厚みの少ない断熱材で済むことができます。

また同時に、外断熱工法は、木材やコンクリートなどが持っている熱容量（蓄熱性能）を生かし、室内の熱を木材に蓄え、より少ないエネルギーで冷暖房がはかれるという効果も持ち、構造体の木材やコンクリートも過酷な外気温にさらされない為、充填断熱工法よりも耐久性が高くなると考えられています。しかし、軸組の外部に断熱材を取り付けるため、ビスの保持力の関係から現在では50mm程度の断熱材しか取り付けられず、そのため、外壁材にはモルタルやタイルなどの重い材料は不向きで、高断熱化をはかる場合は、断熱性能の高い断熱材を選ぶか、あるいは軸組部分に充填断熱としての断熱補強を行う必要があります。

※熱橋 外壁や内壁の間にある柱などが熱を伝える現象

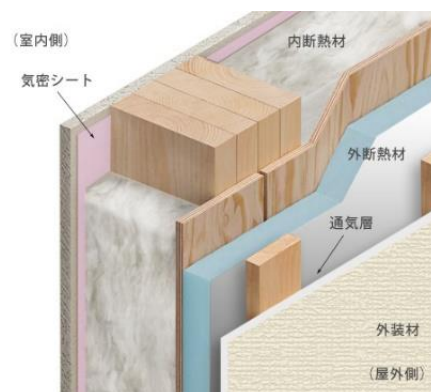


■内外ダブル断熱

外断熱の場合は、外部に貼る断熱材の厚みに制限がある為、充填断熱と外断熱を併用し、高断熱化をする工法です。

ちなみに、現在おいらせ町で建築中のお宅もこの工法をとりいれております。ちなみに高性能グラスウールを100mmとフェノールフォーム断熱材30mmを使っています。

断熱工法の一例をあげましたが、断熱材は繊維系、プラスチック系など様々、また製品によって厚さや性能も違います。適材適所に、しっかりと施工することがとても大切で、これを怠ると隙間で寒くなったり、結露を発生させる原因にもなります。当社でも施工する際はとても気を遣う部分の一つになります。 続きは次回の通信で・・・



今晚食べたくなる一品！ ネットで見つけて実際に作ってみて美味しかったものを紹介しています。



麻婆白菜 材料（2人前）

白菜3枚 豚挽き肉 100g にんにく 1片
ショウガ 1片 ねぎ10cm位 赤唐辛子 少々
粉山椒 少々 ごま油 大さじ1 醤油 大さじ1.5
みりん 大さじ1.5 水 1カップ 水溶き片栗粉

【作り方】

- 1 白菜は軸の部分は長さ6センチ、幅2センチに切り、葉はざく切りにする。
- 2 フライパンにごま油を入れ、熱し、刻んだにんにく、ショウガ、ねぎを炒め、香りが出たらひき肉を炒めます。
- 3 ひき肉の色が変わったら白菜の軸、葉の順に炒め、小口切りした赤唐辛子を加えて炒めます。
- 4 醤油、みりん、水を加え、蓋をして3～4分煮ます。水溶き片栗粉で様子をみながらとろみを付けます。
- 5 器に盛り付け、参照を振りかけて完成です。

※チャーハンや、麺にかけてもおいしいですよ、一度お試しあれ！時間もかからずあっという間に完成

只今建築中！

現在おいらせ町で建築中の〇邸の工事も外部工事から、内部工事に入っております。
年明け1月の完成をめざしてスタッフ一同寒い中頑張っています。
完成後は新春のイベントとして完成見学会を予定しております。設備だけに頼らない高断熱住宅で暖かなお宅です。この機会にまたお会いしましょう。



建物概要

閑静な住宅街に建つ2階建ての木造住宅。

内外ダブル断熱をすることで、断熱性を高め、熱を逃がさない構造にして、エアコンとFFストーブ併用で、低めの温度設定でも暖かくなるように計画した設備だけに頼らないお宅です。

延床面積 約42坪

上北建設株式会社

～快適すまいの研究所～

〒034-0037 十和田市穂並町 2-62

電話 0176-23-3511

メール j-sasaki@kamikita.co.jp

HP: <http://kamikita.co.jp/kaiteki-sumai>

担当：ハウスマンアドバイザー

佐々木 淳（ささき じゅん）



編集後記・・・

長い冬がやってきました。でもこの長かつらい冬があるからこそ、春の訪れを楽しみに待つことができます。

今回は『断熱工法』の違いについて簡単な説明でしたが、ご理解いただけましたでしょうか。温かい家づくりにはとても重要な事柄ですので参考にしてみてください。

昨年お引渡ししたお客様のお宅を訪問した際、寒い外から帰ってきて、家の中に入って感じることは「心地良い暖かさがいいですね」というお言葉をいただきました。暑過ぎず、寒過ぎず、ほどほどの暖かさが気に入っていただいている様子でした。

間もなく新しい年を迎えますが、また皆様とお会いできる機会が増えていければよいなと思っております。